

## 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 秩父市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化  
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 秩父市小規模校教育高度化推進プロジェクト  
～小中連携による学力向上を目指して～  
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策  
ア 少人数であることを最大限生かした教育活動に関する研究  
イ 創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策  
(2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策  
ア 学校間ネットワークの構築  
イ 社会教育と密接に連携した学校教育活動  
※事業計画書「5. 研究課題」と同じ  
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

### 5. 事業の実績

#### (1) 調査研究のねらい

人口・児童生徒数の減少、学校の小規模化が進行する秩父市において、スケールに起因するデメリットを最小化し、小規模校のメリットを最大化させる方策を通して教育を高度化する研究を行い、取組を推進する。タブレット等ICT機器を活用し、個に応じたきめ細かな指導や思考力・表現力を高める指導を計画的・継続的に行い、これからの時代に対応した小規模校の教育活動の充実を図る総合的な方策を提示する。さらに、秩父の良さである豊かな自然環境・伝統文化、人と人とのつながり等を積極的に教育活動に取り入れ、豊かな心を持ち、秩父が大好きな、あすの秩父を担う子どもたちの育成に取り組む。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

#### (2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

4月	小中合同研修推進委員会の開催（4月4日） 小中合同防災訓練の実施（4月26日）
5月	ICT機器（実物投影機等）活用研修会の実施（5月1日、29日） 小中合同全員協議会の開催（5月22日）
6月	小中合同学校保健委員会の実施（6月8日） 第1回ICT活用教育推進委員会の実施（6月13日） 指導者 教育情報化コーディネーター 磯崎ひろみ 氏 講義・演習 「効果的なICT活用と授業づくり」 (実物投影機の活用実践) 中学生による小学生への読み聞かせ活動の実施（6月15日） ICT機器（デジタル教科書等）活用研修会（6月19日）
7月	夏休み補充学習の実施
8月	P T A親子ふれあい奉仕作業（8月20日） 小中合同下校訓練の実施（8月25日） ものづくり体験講座の実施（8月31日）
9月	運動会小中合同練習の実施 小中合同運動会の実施（9月9日） 大田地区ふれあい祭り参加（9月24日）
10月	米作り稲刈り、脱穀体験（10月3日、12日） 大田中学校文化祭（大田小学校の参加）（10月21日） 米作り感謝の会・収穫祭の実施（10月28日）

11月	小中合同学校保健委員会の実施（11月8日） 中学生による小学生への読み聞かせ活動（11月16日） 2020年代の学びを変える先進的ICT教育研究大会 参加（11月21日） 第2回秩父市ICT活用教育推進委員会の実施（11月22日） 指導者 東京学芸大学教育学部准教授 高橋 純 氏 協議 効果的なICT活用法及び解決すべき課題について 講義 新学習指導要領とICT活用 全日本教育工学研究協議会全国大会 和歌山大会参加（11月24日、25日）
12月	秩父市小規模校教育高度化推進会議（中間発表会）の開催（12月6日） 指導者 聖徳大学大学教職研究科教授 南部昌敏 氏 公開授業 大田小学校全6学級、大田中学校全3学級 実践報告 大田小学校及び大田中学校研究主任 講演 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ～「アクティブ・ラーニング」からの授業改善～
1月	大田中学校体験入学の実施（1月23日）
2月	第3回秩父市ICT活用教育推進委員会の実施（2月8日） 指導者 東京学芸大学教育学部准教授 高橋 純 氏 研究授業 4年理科「もののあたたまり方」 講義指導 新学習指導要領とICT活用 第2回小規模校教育高度化推進会議の開催（2月13日） 指導者 聖徳大学大学院教職研究科教授 南部昌敏 氏 講義指導 今年度のまとめと次年度に向けて
3月	第3回小規模校教育高度化推進会議の開催（3月12日） 指導者 聖徳大学大学院教職研究科教授 南部昌敏 氏 講義指導 今年度のまとめと次年度に向けて

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

## 6. 事業の成果

### (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>(1) 小規模校のメリットを最大化させる方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情、将来の夢・希望、大田への愛着、ICT活用能力、コミュニケーション能力についてのアンケートと、全国学力・学習状況調査および埼玉県学力・学習状況調査の結果を活用し、一人一人の実態を把握するための個票を作成した。2回の調査により変容を明らかにするとともに、個票で明らかになった得意や苦手な能力に応じて個別指導を実施し、一人一人の特徴に応じた適切な支援が行えるようになった。自尊感情についてのアンケート結果では、5月から10月にかけて0.3ポイント増加した。また、学校評価「一人一人を向上させる指導体制になっている」の結果では、平成27年度と比較して0.35ポイント増加した。</li> <li>・子どもたちに身につけさせたいコミュニケーション能力について9年間の段階一覧表を作成し、日々の授業や活動においてコミュニケーション能力の育成に取り組んだ。アンケート調査によるコミュニケーション能力には大きな変容は見られず、さらに質の高い指導の工夫改善を行ったり、伸びや成果を実感できる指標について検討する必要がある。</li> <li>・ペアや小グループでの学び合い、まとめや振り返りの工夫、ICT機器を用いた拡大提示の工夫などに取り組んだ。平成29年度の埼玉県学力・学習状況調査の「学力の伸び」において、5、6年の国語、算数において、県の「学力の伸び」が2～3ポイント上回った。さらにきめ細かな教育計画を作成し、具体的な支援方法を工夫し思考を深める指導を行っていく必要がある。</li> <li>・多彩な人との「交流機会」と「発表機会」拡充の計画を作成し、朝の会や帰りの会、縦割り活動や全校集会、読み聞かせ、地域行事での発表など、様々な場面で発表する機会を確保することができた。さらに、一人一人に応じた目指す発表の段階を明らかにし、児童生徒にイメージさせ、発表のレベルアップを図りたい。</li> <li>・5、6年生において一人1台のタブレット端末を割り当て、学習支援ソフトを活用し、朝自習や授業の一部、夏休み補充学習等において算数ドリル学習に取り組んだ。また、タブレットの持ち帰りによる家庭学習での取組を開始した。つまづきに応じた基礎基本の確</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実な定着に結びつけることができ、全国学力学習状況調査結果では、県や全国の平均を上回ることができた。さらに、つまずき状況等の分析を深め、習熟に応じた適切な指導計画を作成し、伸びを実感させることのできる指導を工夫し、意欲的に学習に取り組めるようにしたい。

- ・ I C T機器の整備、I C T機器の活用法研修会の実施により、児童生徒、教師にとって活用しやすい I C T環境が整ってきた。教師用 I C T活用マニュアルを作成したり、実践的体験的な I C T機器の使い方研修会の実施、トラブル時のサポータ体制の整備等により、1週間の教師一人あたりの I C T機器活用回数が2.0回から8.9回へ増加した。また、教師の I C T活用能力においては、2.77ポイントから3.28ポイントへ増加した。

- ・ 朝自習、夏休み補充学習、家庭学習等においてタブレット端末の活用と全校集会や委員会発表等での I C T機器の活用など日常的に I C T機器を活用し、基礎基本の定着や表現力の育成に役立てることができた。さらに I C T機器を扱う到達目標を明確にし、情報活用能力の育成のための指導計画を作成し実施する必要がある。

- ・ 授業研究会等の研修の実施により、

- ・ 教科書や資料、地図、児童生徒のノートなどの実物投影機による拡大提示

- ・ タブレットを用いた教師によるデジタル教科書の提示、またはインターネットによる情報の提示

- ・ タブレットを活用しての児童生徒自らインターネットを活用した調べ学習

- ・ タブレットのカメラ機能の活用 等、授業における I C T機器活用を拡大させていくことができた。活用能力を高め、探究的活動場面、協働的活用等について少人数を生かした取組等、I C T機器が有効に使えるよう研修を深めていく必要がある。

## (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策

- ・ 大田小学校、大田中学校の教職員間の連携・交流、学校行事や諸活動の連携・交流、児童生徒の連携・交流を充実させることにより、教育活動の質の向上を図るとともに、多様な人と関わる機会を増加させ、固定的な人間関係等のデメリットを減少させることにもつながった。児童生徒間や教職員間の学校間の連携を進めたことにより、保護者間、地域の方との連携した取組により影響が出てきている。学校評価におけるポイントが平成27年度と比較して0.19ポイント上昇した。

- ・ 9年間を見通した目指すコミュニケーション能力を定めることができた。さらに目指す児童生徒像のもとに必要な能力6項目について、9年間を見通し、小中学校のつながりをなめらかにした指導を工夫し、変容や成果を検証できるようにする必要がある。

- ・ 外国語活動や英語授業等においてインターネットを通じて外国人と通信したり、地域のよさ等について紹介したりする学校間との通信について進めるために、環境を整備して行っていく必要がある。

- ・ 米作り体験や地域祭りへの参加、発表など、さまざまな地域とのふれあい活動に取り組んできた。活動内容について、発達段階に応じた目指す能力を明らかにした全体計画を作成し、地域住民が活躍できる質の高い交流活動にしていく必要がある。

- ・ コミュニティスクールへ移行することにより、さらに地域住民が主体となった地域とともにある学校としていきたい。

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

- ・ 秩父市小規模校教育高度化推進会議実施要項
- ・ 少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業中間発表会資料(大田小学校)
- ・ 研究紀要 (大田中学校)

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については、10部添付すること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

- ・ 9年間を見据えた小中連携指導計画の作成
- ・ 9年間を見通した目指す児童生徒像の明確化
- ・ 指標をもとにした研究成果の検証
- ・ 研究の成果の他校への拡充

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。